

# 語り部ニュース

八月号

## 講演会報告

中田照造

七月二六日(日) 福井県おおい町名田庄山村開発センター二階にて午後13:30~15:00

引揚のまち舞鶴の史実を語る

「つなぐ記憶・語る命」と題して

講演に行ってきました。普段は学校の生徒さんや、グループの集まりの講演ですが地域の一般の方が、集まっていただけのか心配でしたが雨の中80名ぐらいの方がお集まりいただき熱心に聴いていただいたと思います。

講演会が終了した後、私にとってとてもうれしいことが待っていました、もっていった荷物(片付け車に運ぶ時、ひとりのお年寄りが寄ってこられ

「あなたは町屋の子か?」と聞かれ意味がわからず聞きなおそうとすると、「きゅうりを作っているか?」とまた聞かれました。「いいえ」と答えると「わしの作ったきゅうり食べてくれるか?」はいと答え待っていると、駐車場の車から立派なきゅうり三本もってきていただきました。お礼を言ってい

ただくと、「わしはミゾグチと言うんや、怪しいもんやないで」と言いながら帰っていかれました。

講演を終わりに、福井、中日新聞の取材や名田庄語り部の会の方との話をし、て三十分以上経っていたその間玄関で私を待っていただき本当に感謝いっばいです。

おいしいきゅうりがお気持ちもいただききもつとおしくいただきました。

## こんな事がありました



七月二十三日林英臣政経塾(熟士・京都府会議員岡本忠蔵)の皆さんが視察に来られました。

## 人権学習講演に関する

### 講師派遣の御礼

宮津市立中学校 校長 久保誠一

盛夏の候、貴職に於かれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は、本校の教育の推進に格別のご理解とご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、昨日の人権学習につきましては、ご多用のなかにもかかわらず、貴法人の中田照造様にご講演いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

歴史の中の大きな出来事を学ぶと共に、人間として大切にすべき根幹の部分を広い視野と豊富な経験をもとにお話しいただき、生徒達も感銘を受けた事と思います。

お話しいただいたことを糧として、今後も日々学校生活を充実させていくべく、指導してまいりたいと思います。

結びにあたり、今後ともご支援、ご協力を賜りますことを重ねてお願い申し上げます。と共、貴職の益々のご発展と皆様方のご多幸をお祈りし、略儀ながら書面にてお礼とさせていただきます。

## 感想文

十四篇の内、一篇紹介(三年)

今日の話を聞きながら、私は前に  
読んだ「蟹工船」の漫画版を思い浮かべていました。蟹工船の船の中も、外国にいた人の生活に、似ていました。

食事もしかしなくて風呂にも入っていませんでした。それで船の中で病気で死んでしまった人にも、バケツ一杯の水で「これで拭け!無駄に使うなよ」って言って、すごくかわいそうでした。

今日の話もすごく悲惨で泣きそうでした。そもそも私は、舞鶴にそんなところがあるなんて知りませんでしたしびっくりです。その時の人達に比べると、私たちはとても幸せだなって、生きていられるってすごい喜びなんだな

と思います。私は、ふつうの日常をすごす時も、なんでも幸せなんだとは思わなければ・・・と思っているのですが、それが出来ても、少しでもイヤなことがあったりすると不幸に思ってしまう。時には生きている事に疑問をもったりもします。私は、その時の自分がとてもゼイタクだと思いました。

もつと生きたいと思う人もいるのに、私は自分のことばかりでした。もつと幸せをじっかんして、他の人にも幸せを感じてほしいと心から思います。話が聞けてとてもよかったです。

感想文は事務所に置きます。

七月二日東舞鶴高校三年生「国際文化コース」の生徒さんが「舞鶴の歴史、引揚げ」の学習に来館されました。その時の感想文十一篇及び六月十二日の東校二学年生『太平洋戦争と人権』講師・村尾幸作の感想文も届いています。

### 次世代の人たちへの感謝と期待。

樟 康

四月のある日のこと、岩田さんから「ギターを持った青年が夕方記念公園に来て、『せんべい』(CD)をもろたけど、いっぺん『機械』(ぼそこん?)で連絡してみて」と連絡を頂いたのがきっかけで、長野県在住のシンガーソングライター「清水学さん」とメル友になりました。

六月二十日に再訪したいとの連絡を受けて記念館で待ちました。イケメンの清水君とカメラマン、マネージャーさんの三人は、泰阜村の「中島田鶴さん」に続いての記念館の取材。「一日中もいいです」という意気込みで記念館をゆっくり見学。昼食さえ忘れるほどでした。翌日は、記念公園で出来たてのホヤホヤ、中島先生の逃避行をテーマ

おい町名田庄図書館講演(写真提供谷口)

【第五回戦争を語る】参加七十名



にした「沈まぬ太陽」を披露してくれました。当初はロック調のリズムはどうも思いながら聞いていたのですが、歌も佳境に入ると、大陸をさまよった子どもたちの姿が彷彿として来て涙、涙。亡くなったおじいちゃんの引揚体験を書いた手記を見て一作目「望郷」につづいて引揚げをテーマにした曲。戦争を全く知らない世代の青年が、私には別世界のリズムで、開拓団の人たちの逃避行の悲惨さ、そして戦争の悲惨さ

を訴えてくれています。

信州でラジオのパーソナリティを務め学校訪問などもしている清水さん、若い人たちに、こどもたちに、引揚げを、その原因になった戦争を伝え続けてくれることでしょう。

その翌日でしたか、たまたま中田理事長の車に同乗させて頂いていた時、バスに乗りそびれたという若いお嬢さんとご一緒になりました。聞けば、お祖父さんがシベリア体験者で、やはり同じ体験者のお祖父さんを持つ学友に教えられて記念館へ来たのだとか。奇しくも、車中は、引揚げ体験者の私と、二世の理事長、そして三世の彼女と三世代が揃いました。その前日に来られた兵庫県海外同友会の副理事長も二世、飯田の満蒙開拓団記念館でも中心の事務局長は二世です。それどころかわが「語りの会」では、多くの非体験者の方が頑張って下さっています。体験者が高齢化し、風化しつつあるかに見える、引揚げだけでなく戦争体験そのものが、こうして脈々と伝えられていることを身をもって感じました。

舞鶴に居ながら「語り部」から逃げていたのでは、「閻魔さま」に叱られるからと、養成講座に参加した松岡さん

と私ですが、こうした心強い後継<sup>2</sup>者が育って居ることを、多くの亡き同胞たちも喜んでおられることと思います。会員の皆様のご協力、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

### 史実に基づいて 谷口久乃

貴重な戦後の資料が手に入りました。昭和二十二年十一月三日、米軍機による引揚げ援護局及び平湾付近の航空写真です。高度6,706mから撮影されたものです。

北棧橋も南棧橋も写っています。現在クレインブリッジが架橋されている地点よりよりも内側に6,000トン(少なくとも)クラスの船が停泊しているのが見えますが、地元の農協に勤務しておられた方のお話によりますと、それは航行不能の廃船のようです。

### 【講演依頼】十一月二十一日

河内長野市立東中学校より

土曜参観PTA教育講演会

対象者・・・保護者約三十名、

全生徒四六二名及び教職員三十名

の合計五二二名。河内長野市の教育委員長が視察に来館され説明

を受け感銘し紹介されたとのこと

です。



{参考} 米軍撮影 1947年11月3日 高度6,706mで撮影

長い間そのまま停泊させてあったと伺いましたが、長い間の期間がどれくらいかはつきりしません。船名も不明

です。又、撮影日前日の十一月二日に遠州丸が入港しているはずですが写っていません。もっと蛇島側なのでしょう

うか。次の日すぐ又出航したのでしょうか。(高空からの撮影時間前に) 疑問が残ります。

板硝子舞鶴工場もまだ建設されていませんし、大浦中学校もまだ軍用地のままです。

大浦中学校は昭和二十四年四月の時点では本部は西大浦農協にあり、二十五年四月原と平両分校を統合し平小学校の教室を借りて発足しています。(この頃引揚者の皆様を迎える歌を唄いながら援護局まで歩いていった歓迎したと聞いています)

現在の大浦小学校の地に大浦中学校の校舎の一部が落成したのは昭和二十七年八月の事です。調べれば調べるほど輪郭がはつきりするのですが、やはり時間がかかるのは事実です。

どんな小さなことでも聞きとり、記録として残しておく事が大切であることを感じている昨今です。

史実を正しく知る事は大変な事を実感しながら、次に聞き取りしなければならぬことは何なのか模索中です。

#### 聞き取り部活動 谷口久乃

六月二十三日鳥取県米子市「財団法人全国抑留者協会」井上氏がご夫婦で来館、浜さんと共に聞く

ピョンヤンで武装解除されウラジ<sup>3</sup>オへ連行された。昭和23年8月30日「遠州丸」にて舞鶴に引揚げた。

GHQの取調べでいい加減な事を答えたら、壁の方を向いて一時間立たされたことや収容所内の再現(人形)コウナーでは、「こんな綺麗な物ではなかった!」とつぶやかれた。

クロパンはイースト菌を入れるが、余り膨らまなかった事など懐かしそうに話された。塩マスの冷凍運搬は、30K入り、60K、90K入りとあって、それぞれ捕虜の体格によって担がされた、重くてなかなか担げずイヤだった。ウラジオでもマイナス五十度になったことがあったが、動けば動くほど痛く(痛いほど寒かった)どうしようもなかった。

食事係りだったが、ビタミンC不足で壊血病患者が多かった。野菜がないので(特に沿海州の為)松葉をみじん切りにしてコウリヤン粥に入れたがまづくって評判が悪かった。

二週間ほどで手足の斑点が薄くなり、出血も治まった。少しでも良くなった、良かったと思った。帰国してその事を医者に言くと、「そんな事はウソや!根拠がない!」と一蹴されたが、実際に

あったことだと力説されていた。来年七月に千鳥が淵に慰霊碑を建てる計画との事、(すでに全国に二十三箇所建立している)益々健康でありますよう祈りながらお別れした。

**語り部養成講座**、皆さん頑張ってます。毎月第二土曜日と第四土曜日です。会員の皆様も当日ご参加下さい。

養成講座風景



## わいわいと語ろう会の報告

### (第二回目)

七月二五日(土)十三時から全国友会の事務所に集まりました。

六月二七日の第一回目で意見を聞くつもりであった「会の研修旅行」について論議しました。

第一回目は研修旅行よりも今後の「会」をどうするのかということで話

が進みました。とにかく会員相互の交流を図ること、会員を一人でも多く増やし当会の第一の活動趣旨である「語り部」活動を充実強化していく必要があるとの意見が集約されました。具体策としては、会員各位がとにかく「記念館」に足を運ぶこと(担当の時



ることなどが挙げられました。このことを踏まえ今回の研修旅行の検討についても会員全員を対象にした研修会の実施を念頭において話し合いました。最終的には理事連絡に図る必

要がありますが、以下のとおりでまゝりました。

① 全体交流会は本年度養成講座受講生の方を交え、九月に立命館「国際平和ミュージアム」の見学及び交流

② 一泊研修旅行は費用等の件も考慮し、全員で同じ場所での研修にするのか、行先を三〇四に絞りグループ毎でそれぞれ研修するのがいいのかアンケートを実施して案を決める。

最後に 会報に載せるため「わいわいと語ろう会」の報告をこのようにまとめましたが、本当は皆で、わいわいやがやと喋っています。お茶、コーヒーは出ませんが、ぜひ皆さまも顔を出して下さい。「谷口栄一」

毎月第四土曜日十三時です。この後十五時から養成講座を開講しております。

### 7月の活動実績

|          |         |
|----------|---------|
| 稼動日数     | 31日     |
| ガイド数     | 2,435人  |
| 予約数      | 32件     |
| 予約人数     | 924人    |
| 稼動会員数    | 16人     |
| 募金箱      | 43,755円 |
| ご苦労様でした。 |         |

### 【シベリア抑留新資料】70万人分 ロシア側、保管 朝日新聞記事より(6月25日号)

【モスクワ発】第2次大戦後、シベリアなど旧ソ連に抑留された日本人70万人分(軍人、軍属、一般人含む)を記録した新資料が、モスクワのロシア軍事公文書館に保管されている事が確認された。資料の内容の提供方法を含めて日本政府とロシア側と調整を進めている。

厚生労働省によるとこれまでロシア側から提供された抑留者資料は約47万人分の帰還者の個人資料と計4万1千人分の死亡者名簿。これに対して新資料はカード形式で1人1枚ずつあり氏名、生年月日、収容所の移動記録などが記載されている。カードを1千枚ずつ入れた段ボール箱が757個保管されているのを確認した。厚生労働省はモンゴルを除くシベリア抑留者を56万1千人、うち死亡者を5万3千人と推定していた。今回の新資料はこの推定数より約10万人分多い可能性があるとしている。(精査が急がれる)トヨタ